

## 「知事とのフレッシュトーク」 概要 (令和4年9月8日(木) 県立盲学校)

知事が高校生の皆さんとこれからの青森県や自分たちの将来に関して意見交換を行う「知事とのフレッシュトーク」について、県立盲学校での実施概要をお知らせします。

生徒による学校紹介の後、代表生徒と知事が意見交換を行いました。

(参加：高等部生徒5名、中学部1名)



### (発言生徒1、2年男子)

私は、風間浦村出身です。

私は、毎週、青森市と風間浦村を往復していますが、電車がむつ市までしか通っていません。長時間の移動も慣れてきましたが、やはり不便さを感じています。

また、知事も御存知のとおり、昨年の8月の大雨災害によって、むつ市内の橋が崩落し、村に続く道路が土砂で遮断され、風間浦村は一時孤立状態になってしまいました。一時は大変な状況でしたが、様々な支援と復旧作業により日常を取り戻してきています。

しかしながら、再び大雨による土砂災害が起きたらどうしようかと不安に思う日があります。

こうした電車や道路などに関連する経験から、次第に青森県内の交通面のインフラ整備について考えるようになりました。

先ほど紹介したように、将来、盲学校・聾学校の校舎建設予定の青森市安田地区は、田んぼのあぜ道や車道と歩道が分かれていない道路が多く、視覚障害者の安全な移動を確保できる状態ではありません。私たちには、校舎だけでなく、命を守るために安全な学校周辺の環境が必要です。

また、移動に時間を要する私たちにとって、学校周辺徒歩10分圏内に駅やバス停がある、この矢田前は、生活しやすい環境です。視覚障害だけでなく、あらゆる障害を持つ人たちが安全に移動、生活するための交通面でのインフラ整備について、青森県ではどのように取り組んでいけますか。

以上です。

よろしくお願いします。



### (知事)

ありがとう。

とても大事なことを聞いてくれたと感じています。

昨年、風間浦の特定の地域で大雨が降り、その影響で橋が破壊されました。あそこは、歩道橋を直



したら、そちらは大丈夫で、何故か橋本体の方が曲がってしまいました。

今、国と一緒に一生懸命復旧作業をしています。

ただ、あの地域は過去、大きな落石が発生した場所で、もう10年ぐらい前にかなりの経費をかけて、2年間でその石を撤去しました。今回、その石が落ちていたら、もっと道路の復旧が遅れていたと思います。

このように、これからも早め、早めに防災のことはやっていきたいと思っています。

あと、砂防ダムをたくさん山に造りました。それも効果があったのですが、あの1か所、橋が壊れてしまったのはショックでしたが、ちゃんと直しています。

では、話を元に戻します。それぞれ今日は、担当部署から、どういう考えで、どういうふうに地域づくりをしているかということ、まずは障害福祉課から説明します。次に、交通政策課から、駅との関係を。道路の関係については、道路課から、そのあと、教育委員会から少し専門的な話をさせていただきます。

では、それぞれお願いします。

### (障害福祉課)

青森県では、誰もが、どこでも自立し、安心して暮らせる共生社会を目指して、「青森県障害者計画」というものを作っています。

この計画の中では、8つの柱、障害者への理解促進、生活支援の充実、生活環境の充実、保健・医療の充実、教育の充実、雇用・就業の促進、情報バリアフリー化の推進、それからスポーツ・文化・芸術活動への参加促進という、8つの柱をたてています。

この中で、生活支援、生活環境といった生活全般に関する部分は、「青森県福祉のまちづくり条例」という条例で建物の整備のことを決めています。

そして、保健・医療の分野では、こころの健康を支え大切な命を守るために「いのち支える包括的な自殺対策」として、法律相談や、相談を受ける人や対策を行う人たちの人材育成をしています。

また、教育や働くことといった分野では、就学相談や教育相談を開催することや、優良な事業所や働いている障害をお持ちの優秀な方を表彰して、障害者雇用を促進しています。

この他、実りある生活を皆さんに送っていただくために、情報バリアフリー化やスポーツ・文化・芸術活動への参加促進といったことにも取り組んでいます。

このように、障害をお持ちの方が、あらゆる障害の特性の方、あるいは、子どもから大人までのあらゆる世代の方が、保健・医療・福祉・教育・就業・スポーツ芸術文化など、あらゆる分野で活躍でき、そして共に生活できるような社会を目指して、引き続き取り組んでいきます。

### (知事)

聞いてくれたとおり、凄く生真面目に真剣に、誰もが一緒に生きていけるような仕組みを作りたいと思ってやっています。

それから、私としては、保健・医療・福祉包括ケアシステム、要するに高齢者の方の地域包括と違って、どんな状態の方でもそれぞれの地域社会で、ここで生きて良かったな、暮らして良かったなと思えるような青森県にしようということを市町村と一緒に進めてきています。

これからもしっかりやっていきたいと思っています。

今日、いろいろ指摘していただいたことは、皆が暮らしていくためにどういうふうに整えたらいい



かということに繋げていけると思っています。

そこで、次は、交通政策課、道路課、一番重要なところの話をさせていただきます。



#### (交通政策課)

今、青森駅は改修され綺麗になっていますが、以前の青森駅はエレベーターやエスカレーターが限られ、東口から西口の方に行くためには、改札を通らなければならないなど、不便がありました。

しかし、法律で、新しく建設したり、大規模改良をしたりする場合には、バリアフリー対応をしなければならないという決まりがあるため、今の青森駅を建設する際、全部のホームにエレベーターやエスカレーターが設置されました。県では、誰もが使いやすい駅になるように、この経費の一部を負担しています。

駅だけではなく、現在、10階建ての駅ビルの建築工事が進んでいます。これも新しい施設なので、スロープやエレベーター等、誰もが使いやすいように造っています。

次にバスについてですが、青森県には小規模のバス会社が多いため、県からバス会社に補助金を出して、低床バスとって、利用者が乗り降りしやすいバスを導入しやすくしています。

#### (道路課)

県では、安全・安心な道づくりのためにいろいろな取組を行っております。

その1つに歩道の整備事業があります。

歩道は、様々な方が利用します。その全ての人にとって、安全で安心な歩道となるように様々な工夫を行っております。



#### (知事)

点字ブロックのこと、段差のこと、勾配、傾きとか、そういうことを、気を付けてやっています。

#### (道路課)

今回、その工夫について3点ほど御紹介したいと思います。

まず、先ほどの学校紹介でもありましたけども、1つ目は点字ブロックになります。こちらは、目の不自由な方でも安全に歩道を利用できるように、駅舎やバス停、それから市役所とか、そういった重要な施設を結ぶ区間で設置されております。

続きまして、2つ目は段差です。

こちらは、段差は無ければ無い方が良くと思われるかもしれませんが、実は、あえて段差を残すようになっています。

これは、段差があることで、ここから先が車道ですよと、ここから先は歩道ですよと。そういったことを人と車、それぞれが直感的に注意していただくということで、具体的に2センチ程度と決められております。

続きまして、工夫の3つ目は勾配です。

歩道は実際、平らのように見えますけど、実は勾配がついております。これは、雨が降った際に雨水が流れるようにして、歩道に水が溜まらないようにするためにつけられております。

これらの工夫は、特別なものではありません。

歩道は、全ての歩行者にとって安全で円滑な移動が可能となる構造とすることが原則となっており、全ての方々が安全に歩道を利用できるように、工事をする際には、これらの工夫を行うこととしております。

それでは、実際に工事を行った状況を見ながら御説明したいと思います。

こちらは、県道久栗坂造道線という、県病のある通りです。

ひび割れや段差が発生してしまっていて、とても利用しづらい環境です。

あと、県病へのアクセスだけではなく、通学路にもなっており、多くの方々が実際利用する歩道になっています。

ところが、ひび割れや段差があり、とても利用しづらい状況になっていたため、平成27年度から整備を進め、今年、完成する予定となっています。

こちらが、実際、工事が完成したところですが、このように段差やクラックが解消されて、歩行スペースも広がっています。車いすもすれ違いができるような広いスペースになってしまっていて、段差や雨水が溜まらないための勾配に配慮しながら、更には点字ブロックも新たに設置されて、誰でも安全に利用できる歩道に生まれ変わっています。

これから、皆さんも歩道を利用されると思いますけれども、その際は、これらの工夫について、思い出していただければと思います。

### (知事)

頑張って、歩道整備の予算を確保して、県内あちこち直していきたいなと思っています。

それでは次に学校教育課から、移転後もしっかり対応していくということをお話したいと思います。

### (学校教育課 特別支援教育推進室)

今、学校が新しくできた時に、道路がこういうふうな感じになります、というお話がありました。学校教育課でも、新しい学校をつくっていくにあたり、児童・生徒の皆さん、保護者の皆さんをはじめ、地域の方々にも安心・安全を第一に考えて進めていきたいと思っています。

特に、この地域や盲学校で取り組まれたことを引き継いでいけるようにできればと思っています。

一番大事なのは、毎日楽しく、安心して通学ができる。そして、地域で輝く学校づくりに努めていければと思っていますので、これからもいろいろ御意見をいただき、考えていきたいと思っています。これからの皆さんの御活躍を願っております。



### (知事)

将来の夢は、県の公務員となって頑張りたいという話があったので、今日は、東青地域県民局長から公務員の仕事や、公務員になったらこういうことがあるといったことを教えてください。

それと、最近採用試験を受けた職員からも、公務員のための勉強について話をしてもらいます。

### (東青地域県民局)

新鮮な視点で真剣にお話しされていて、我々職員の話も真剣に聞いてくれて、私自身もフレッシュな気持ちになりました。ありがとうございます。



公務員の仕事や心構えについて、一言、お話しさせていただきます。

公務員、特に県職員を目指されているということは、地域の方々に貢献したい、青森県をもっともっと良くしたい、そういう思いがあるからだと思っています。本当にそのこと自体、私は尊いことだと思いますし、県職員として凄く嬉しい気持ちになりました。

これから県職員を目指して勉強していくうえで大事なことは、その思いをもっともっと温めて、高い志を持つことだと思います。

先ほど、道路整備の話や、人々に優しいまちづくりの話が出てきましたが、行政の仕事は、県民生活に関わるあらゆる分野が、守備範囲になってきます。そうした活動や県の取組が県民生活にどう繋がっているのかということ、自分なりに考えてみるのが大切です。

そのために、公務員になったら、どの分野でどんな仕事をすれば、県民の幸せに役立つのかという具体的なイメージを、学校生活や地域の活動の中で学んでいってほしいと思います。

それから、もう1つ。今年も、昨年の下北に続いて、津軽半島方面で大雨による自然災害に見舞われました。また、新型コロナウイルスによって社会経済活動も大きく制限されています。そうした自然災害や、今までの対策が通じない新たな課題がたくさん出てきています。そうした複雑化する課題や変化の速い時代に対応していくためには、チャレンジ精神が大事だと思います。普段から、そうした新しいことに挑戦する気持ちを大事にして、力を付けていっていただけたらと思います。

頑張ってください。

### (知事)

チャレンジ精神。しっかり持ってください。

次に、最近試験を受けた職員から話をしてもらいます。

### (県職員)

私は8年前に試験を受けました。

私が受けた時は、筆記試験と面接などがありました。

実は、私、筆記試験は全然良くなって、一生懸命勉強することも大事なんですけども、多分良かったのは、面接というか、自分の想いを伝えるのが上手くいったんじゃないかなと思っています。

公務員になったらこういうことをやりたいとか、こういうふうなことが出来たら嬉しいということ、いろいろ調べて、想いを伝えるということ、訓練していけばいいのかなと思います。



### (知事)

チャレンジ精神と想いを伝えるということ、頑張れ。

では、あと何かあるかな。

**(発言生徒1)**

道路についての感想なんですけど、自分は村出身ということもあって、まだ舗装されていない箇所もあり、あまり進んでないのかなと思っていたんですけど、今、話を聴いてみて、皆さんがとても考えて道路を舗装してくださったり、考えて歩きやすいような道路を造ってくれているんだなと思って、凄い感動しました。

そして、公務員のお話ですが、自分は喋るのは苦手なんですけど、これからは、自分の気持ちをどんどん喋ってチャレンジしていきたいなと思いました。



### (発言生徒 2、1年男子)

私は、写真を撮ることが大好きで、休日も家族と写真を撮りに行くことがあります。

今年度、本校に入学し、校舎の中や学校周辺の写真を沢山撮影しました。

特に校庭の桜は素晴らしいです。この桜を撮影しに来た時に、地域の人たちも学校の桜を観に来ていた姿を見かけました。

その時に矢田前から盲学校や桜の木が無くなった後、矢田前はとても寂しくなってしまうのではないかと心配になりました。

現在、青森県内では、小学校から高等学校まで、学校の統合や廃校が行われています。これには、少子化や過疎化、学校に係る経費削減などが関係していると思いますが、地域から学校を無くすことがかえって地域を寂しくし、「学校がないところでは、子どもを育てられない」というふうに子育て世代から敬遠されることに繋がってはいないでしょうか。

現在の学校の統合や廃校、そして本校のような校舎移転によるメリットは、どのようなことがあるのでしょうか。

また、学校が無くなった後の地域を活性化させるために具体的に県が取り組んだり支援したりしていることはあるのでしょうか。

以上です。

よろしくお願いします。

### (知事)

本当によく聞いてくれました。

何と言っても最初に話が出た少子化のことについてですが、人口動態というのが毎月データとしてあがってきます。社会動態といって、要するに東京とか北海道に就職するために県外へ転出する人と青森県に戻って来て就職する人。こちらの方は落ち着いてきています。



青森県の場合は、高齢者人口が多いので、亡くなる方が多く、その一方で赤ちゃんが、今月も500名より少ない、といった状態が続いていて、コロナになって益々、コロナだけじゃないかもしれないんだけど、どうしようという感じですね。

その傾向は、日本中、東京以外、首都圏以外は同じかもしれないけども、続いています。

そういった中で、市町村も県も、県は私立の学校も公立もあるんだけど、それぞれがどうしたら一番、学ぶ環境を整えることができるのかというのを凄く真剣に考えて、教育委員会として、考えをまとめて、実は、進めています。

それでは教育委員会、お願いします。

### (高等学校教育改革推進室)

御質問の件についてお答えします。

まず、公立の小学校、中学校というのは、市町村が設置しています。例えば、青森市や弘前市、風間浦村が小学校、中学校を設置しています。

県立高校は、私たち青森県が設置しております。こちらの県立盲学校も青森県が設置しています。



今日は、県立高校のことについて説明させていただきたいと思います。

まず、現在の高校教育を取り巻く環境の変化として、中学校卒業予定者数の減少が挙げられております。

平成29年の中学校卒業予定者数、約1万2千人です。

そして令和14年度の中学校卒業予定者数で、約8千人にまで減少しております。

少子高齢化が進んでいく中で、このように子どもの数も減っているということが、まず、背景にあります。

この生徒数の減少に併せて、そのまま学校を小さくしていってしまうと、例えば、先生の数が少なくなったり、あと生徒の皆さん、一人ひとりの興味・関心に合わせた科目の勉強ができなくなったり、様々な友人との学び合いや交流の機会が少なくなったりしていきます。

他にも体育祭や文化祭などの学校行事、あとは部活動ですね。部員が少なくなるなど、様々な活動の活気が低下してしまうといったことが心配されます。

今、話した課題を解決するために、私たちは、青森県の未来を担う子どもたちに充実した教育環境を提供するために、県立高校の魅力づくりに取り組んでおり、その一環として、統廃合を行っております。

大きな規模の学校をつくることで、その大きな規模の学校で先生の数も増えて、幅広い授業を通して、興味、関心に合わせた勉強ができるようになります。

また、生徒数が多いことで、多くの友人たちと一緒に学校行事や部活動を行うことができるということで、様々な活動で活気が増します。

続いて、地域の活性化についてです。

学校では、総合的な探究の時間の授業の中で様々な取組を行っており、地域交流もその1つです。

6月23日に、皆さん、この学校の周辺の清掃活動をしたと思います。その時のことをちょっと思い出してみたいんです。清掃活動を通して、地域の皆さんとも一緒に活動していたと思うんですが、その中で、例えば、いろんな地域のことを聞いたりしたと思います。まずは、こういった地域と交流する活動の中で様々な地域のことを学んでいくということです。

それで、その時の、新聞記事の中でも、校長先生が「地域の中に学びがある」とおっしゃっていたと思います。

地域のことを知り、好きになって欲しいと、私たちは思っております。地域のことというのは、学校がある、この地域は勿論なんですけども、その他にも皆さんが生まれ育った地域も、あとは、青森県そのものを好きになって欲しいなと思っております。

好きになって、皆が生まれた地域、青森に対して愛着を持って欲しいと。それで、将来は青森で暮らして、青森で働きたいと思ってもらい、地域を支える、青森県を支える人財として、成長していくことが、私たちは、地域の活性化に繋がると思っております。

私は青森県の高校を卒業した後6年間、東京の大学に行っていて、就職する時は、青森県に帰ってこようと決めていました。何故かといったら青森が好きだから。

こういった形で皆さんにどんどん、どんどん、青森を好きになってもらって、それで青森を支える人財として成長して、地域の活性化に繋がっていくと考えております。

### (知事)

地域との繋がりということで、そして、あと、学校教育課から、また一緒に、盲学校、聾学校一緒になっていこうということについて、少し話させていただきます。





### (学校教育課 特別支援教育推進室)

まず、県立盲学校の現状について、お話しします。

1つ目は、まず、校舎の老朽化です。現在の県立盲学校の普通教室の管理棟は、昭和43年に建てられた校舎で、今年で53年経過しているということです。

続きまして、2つ目は、学校にいる子どもたち、在籍する子どもたちが減少傾向にあるということです。先ほど中学校の在籍数のお話がありました。今後、更に減少していくと、集団で勉強や学校行事を行うことが難しくなるということです。

今、6人がここにいますが、少なくなっていくと、やっぱり寂しいですね。

ここで、八戸市にある、八戸盲・聾学校を紹介します。

八戸盲・聾学校の校舎は、平成15年に建築された新しい建物です。しかし、盲学校と聾学校が併設されたのは、昭和2年、平成の前ですね、昭和2年から既に90年以上経っていますが、盲学校と聾学校の先生が協力して学校を運営しています。

ここは、盲学校、聾学校の子どもたちが一緒に活動することで、少人数ではできない活動をしています。

イメージできますか？

皆さん、視覚障害ということですけど、聴覚障害の子どもたちと一緒に勉強するということですね。運動会と修学旅行など授業以外でも一緒に活動することで、普段は分からないお互いの障害について理解が深まったり、相手を思いやる気持ちが生まれてくると考えております。

このように校舎が1つになると、盲学校と聾学校の子どもたちが一緒に勉強や学校行事を行うことができます。少しでも人数が多いと、多くの方や友だちと関わって、いろんなことができると思います。

2つ目に、一緒に生活することで、それぞれの障害の理解が深まります。お互いに困っているところを助け合ったりすることができますね。

そして3つ目は、集団生活に必要なコミュニケーション能力が育っていくということです。お互いに上手くコミュニケーションが取れるように理解しながら進めていけるということが期待できます。

これらを踏まえて、県立盲学校を敷地の広い安田に青森聾学校に移転、併設して、新しい1つの校舎を建てることに決めました。

特別支援学校に限らず、小学校でも中学校でも高校でも、学校は地域に支えられて、地域の協力があってこそ充実した教育活動が展開できるということで、学校や地域の将来のことをしっかり考えてくれたということは、本当に嬉しく思います。

### (知事)

なかなかすっきりと納得できないことがあるかもしれないけれども、教育委員会では子どもたちの未来ということを本気で考えています。本気で未来のことを考えて、学校で皆が切磋琢磨し、たくさんの人と出会えたり、交流できたりするということを考えています。

だから、何とか理解してくれて、きみたちの後輩たちが、移転後、聾学校と盲学校の皆が仲良くいろんなことを新しい経験にチャレンジしていくようになるのを応援してくれたら嬉しいなと思っています。

きみの将来の夢が青森市公務員ということだったので、十和田の市役所において、市役所公務員を経験している職員が来ているので、市役所の公務員を目指すために役立つアドバイスをお願いします。



### (県職員)

私は、3年間十和田市で仕事をしていました。仕事の内容は、今の仕事と似ていて、観光や、商工業といった産業の仕事に主に携わっていました。

先ほど、局長から、公務員になるためのいろんなアドバイスがあったと思いますが、そこは変わらないです。県は県で、やっぱり広い地域を管轄するので、そういった幅広い取組が必要ですし、市役所はより深いというか、細かいところも含めてのお仕事が増えてくると思います。

その中で凄く楽しかったのは、皆さんのアイデアが沢山生まれてくる。市民の皆さんと会話するとアイデアが生まれてくるというところに、凄くやりがいを感じました。

地域の方々や先生、お友達、家の方とか、いろいろ会話する機会があると思うので、是非、そういった会話の中で色々なことを吸収したり、考えたりする機会を増やしてもらえればいいのかと思います。

その中で、課題を直すためにどうしたらいいのかなどというのを考えるトレーニングをすると思いますし、情報を自分の中に取り入れることが大事だと思います。まだまだ若いので、色々なことを吸収してもらえればいいのかと思います。

もう1つ、課題だけではなくて、実は、特に観光や産業の仕事の魅力を外に伝えるということも大事なんですけど、そうすると、自分の身の周りに気を付けて目を配ることが重要になってくるので、例えば、カメラで桜の写真を撮ったりとか、そういった身近なところでもいいなと思うものがあれば、是非、自分の中で、これはいいなと思うものを見つけることが凄く大事かと思います。

自分の身の周りのことに興味をもって、どんどん情報を取り入れてもらうことが、いずれ役に立つんじゃないかなと思っていますので、是非、そうしてもらえればいいのかと思います。



### (発言生徒3、2年女子)

私は、青森県のことをいつも明るく元気に全国で紹介している三村知事のこと大好きです。

元気な三村知事を見て、青森県に遊びに行ってみようかなと思っている人たちも沢山いると思います。

本当にありがとうございます。

しかしながら、3年目に突入し、対策が必要な新型コロナウイルス感染症により、青森県の観光産業も大打撃を受けたと思います。

オリンピック、パラリンピックが終わり、青森県にも少しずつ観光客が来てくれると思いますが、観光客が泊るホテルや旅館、食事をするお店が減って、折角、青森県に来たいと思っているのに、断念してしまう人たちも出てくるのではないかと心配です。

私は、できることなら、全国の盲学校の生徒たち、卒業生の人たちに空気もご飯も美味しく、人は温かい青森県に沢山遊びに来て欲しいと考えています。

青森県の観光、観光客を増やすために、宿泊施設や飲食店を経営する人たちには、どんな支援がされているのでしょうか。

また、青森県は、観光産業を盛り上げるために、バリアフリーに力を入れていく予定はありますか。以上です。

### (知事)

コロナの関係で、一番大変になっているのが、観光の産業です。

いろんなところに行って、「青森県の良いところは何か」と、全国、同じようなことを聴くかもしれないけど、青森県は、なんたって四季、桜綺麗だね。四季折々が凄くくっきりしていて綺麗で、食べる物が凄く美味しく、お酒もどうしようかっていうぐらい美味しく。あと、人が面白いと言われます。青森に旅行に来てくれた人たちが、



お店で会った方のことを面白くて忘れないとか。海外の方々はそうなんだけど、青森のりんご畑に行っても、温泉に行っても、会う人は皆、青森って、とにかくユニークですね、面白いですねって、こんなことを言ってくれます。

人と出会うことが、凄く楽しいのが、面白いのが、「あどはだり」って、また行ってみたいというのが、青森県の特徴だと思っています。

今日は担当から、観光のこと、どういうふうに頑張ってきているかということを含めて話をします。それから、福祉のまちづくりをどう頑張っているかという話をさせていただきます。

そして、最後にはりんごの歌を歌ってみようと思っています。

だから、楽しみに待っていてね。

では、お願いします。

### (障害福祉課)

まず、観光業にも様々な施設が関わっているのですが、今回は、私の方からは、バリアフリーでどのように進めていくのかというお話をさせていただきます。

先ほども触れましたが、県で様々な施策に取り組んでいるとお話をした中の、ハード面での整備をどのようにしているかというお話です。

多くの方が公共的施設、例えば、学校や病院などを、全ての人が自由に安心して積極的に社会参加できるように、障壁、つまりバリアのないまちづくりを進めるということで、平成10年に「青森県

福祉のまちづくり条例」を制定しました。

この中で適用になる施設というのが様々ありますが、観光産業に関する施設としては、飲食業、物品販売業、それからサービス業の店舗、お店、それからスポーツ、遊興施設、ホテル、旅館、公衆トイレなどがあります。

整備基準を幾つか定めているんですけども、その中で1つ、幾つか例を挙げます。例えば、通路というのは、基本的には段差を無くする。それから、視覚障害者誘導ブロックや注意喚起用のブロックを設けるということがあります。

そして、出入口では広いスペースを確保し、分かりやすい案内板や視覚障害者用ブロックを設ける。

そして、廊下は幅120センチ以上の十分な幅、これは、車いすで移動する方と一般の方が確実にすれ違えるような幅ということになります。そして、滑り難くすること。階段は、両側に手すり、それから視覚障害者をお持ちの方の注意喚起用のブロックを設けるなど、様々あります。

このような取組を引き続き、ハード面でのバリアフリー化ということで進めていきたいと思えます。

### (地域産業課)

私からは、飲食店のことについて説明します。

皆さんもニュースなどで知っているかもしれませんが、飲食店の状況は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、全国的に苦しい状況が続いています。

スライドのデータは、インターネットで青森県の飲食店を閲覧した数を示すデータです。青森の人はもともと全国と比べてあまり外食をしない傾向が強かったのですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まった頃から閲覧数が低下傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響で全体的に外食を控えている様子が伺えます。



飲食店は、美味しい食事を提供するというだけではなくて、地域の食材を使ったメニューによって、地元食材の需要拡大でありますとか、食文化の伝承、まちのにぎわいづくりなど、貢献する部分があります。

コロナの前なんですけども、東京芸大の方々を呼んで高校生に美術を教えていただくという仕事していた際、その方々と飲食店に行った時に、嶽きみの天ぷらを初めて食べ、美味しいと言って、3回くらいおかわりされました。また、地酒もたくさん飲まれていました。

そういった美味しい思い出というのが、青森の良い思い出、記憶として残ったり、青森の観光の魅力の一つになったりすると思います。

活気あるまちづくりとしても、飲食店は不可欠ですし、観光面にとっても非常に魅力の一つとなると思っています。

そこで、県としても飲食店への支援を2年前から実施しており、商工会議所、商工会を通じたプレミアム食事券の発行、その後、飲食店を利用した方に抽選で食事券が当たるというキャンペーンをしております。

このような飲食店の来客数を増やすような取組、経済を回していくような取組を続けてきております。

現在も実施しています。あおり安心飲食店応援キャンペーン「つなぐる」というもので、皆さんに後ほど、チラシをお配りします。こちらは、昨年度もやっていましたが、県が認証したお店、認証店で食事券が当たるというキャンペーンです。

今年度は、夏と冬の2回実施することとしておりまして、夏は、9月30日までとなっています。認証店で食事をしていただくと、応募用紙をもらえますので、それで応募していただくと、1回の

キャンペーンにつき、14,000名様に合計1億円、食事券が抽選で当たります。

皆さんに飲食店応援ということで御協力いただければと思います。よろしくお願いします。



### (誘客交流課)

観光産業を盛り上げるためのバリアフリー施策として、まずは、県立美術館の例を御紹介したいと思います。

県立美術館では、通常の駐車場が少し離れた位置にあります。しかし、身体障害者用の駐車場は建物から近いところがありまして、直接入館できる専用の入口を設けています。

その入口には、総合案内への直通電話があり、希望者には、車いすの貸し出しもしています。

また、美術館の館内には点字ブロックを設置しておりまして、地下2階から地上の1階、全ての展示室をこういった点字ブロックに沿って観ていただくことができます。

また、屋外にある大きな犬の作品オブジェ「あおもり犬」がありますが、バリアフリー対応の出入口を設けています。

同様に屋外「森の子」という作品があります。こちらは高低差がある場所に設置されているため、車いす用のエレベーターを設置するなど、バリアフリーへの対応に積極的に取り組んできています。

続いて、ホテルや旅館といった宿泊施設に対する支援について、お話ししたいと思います。

県では、令和3年7月から、県民の皆様対象、主に県民の皆様を対象にして、県内の宿泊施設で宿泊の料金の割引や、あとは県内の観光施設やお土産屋さんで使えるクーポンを配布する「青森県おでかけキャンペーン」を実施しています。9月末まで使えます。宿泊料金が半額(最大5千円引き)で2千円のクーポンが付きます。是非、御利用いただければと思います。

このキャンペーンをこれまでやってきた結果ですが、令和3年の本県の延べ宿泊者数ですけれども、コロナの影響で県外のお客様がグッと減ってしまいました。令和元年度からグッと減ってしまいましたが、このキャンペーンを通して、県民の皆様が青森県内の宿泊施設に宿泊した方が、令和3年は128万人泊、約128万人泊と、令和元年と比べても21万人、率にすると20%ほど増加しました。

このキャンペーンに参加している宿泊施設の方にアンケートを取りましたら、約97%のお宿さんで、このキャンペーンが経営する上でプラスになったという評価もいただいたところです。

また、小さいお宿も結構ありますので、そういったところからも「大変助かった」とか、あと、大きな施設からは「以前までは少なかった県内のお客様が来てくれるようになった」といった声も聞かれ、宿泊事業者の事業継続のみならず、コロナ禍で注目を集めた「近場の旅」、いわゆる「マイクロツーリズム」の推進にもつながったものと感じています。

まだまだ、近場で宿泊旅行ということは少ないかと思いますが、こういったキャンペーンを通し、県内にもまだ知らない場所、知らないところ、魅力のあるところが沢山あると思いますので、是非、県内各地域に足を運んでいただきたいと思います。

観光産業というのは、凄く裾野が広いと言えます。それは、宿泊するホテルに関係する、例えば、クリーニングや、食材や、調理、交通など、様々な分野で観光は繋がっていきます。キャンペーンを通じて観光を皆さんで支えていただくことで、県内のいろんな産業の支えにも繋がっていきますので、皆さんに積極的に参加してもらえればと思います。

そして、青森県最大の観光の魅力は「人柄溢れる青森県民」だと思っています。まさに青森県民の人柄が他の地域から観光客を呼び寄せる大きな力になるかと思うので、皆さん、一人ひとりが主役だと思っています。

どうぞよろしくお願いします。

### (知事)

今日は大きなりんごを持ってきました。これは王林のりんごです。ちょっと触ってみる？

こういうのを持って歩いて日本中、あるいは国外にもセールスに歩いています。

今日、よさこいやってくれると聞いていたので、こちらは王林の歌を歌おうと思ってきました。

この王林のりんごは、もう15、6年前、なかなか王林が売れなくて苦労している時に、九州の市場の人たちが作ってくれたものです。九州、沖縄のスーパーで、この歌を流して王林を売ってきました。

今日は、その時のことを思い出して、王林の歌を皆さんに聞いていただきたいと思います。  
ジャーン、ミュージックスタート



### 【王林の歌披露】

私たちの県庁の仕事は、意外と地味というか、やっていること派手に見えるかもしれないけど、市場とかスーパーを回って、1軒1軒でキャンペーンして歩くわけです。

実は、公務員の仕事は地道な努力、本当に努力。土日ごとに、いろんな地域を回って歩いてね。秋・冬になると、土日殆ど青森にいない。そんなことをしてこの王林を売ってきたことを、ついこの間、九州市場で思い出しました。

面白かった？

(生徒を見て) 将来の夢「主婦」って書いてくれました。ありがとう。

実は、私は一人暮らしで、自分でお料理作ったり洗濯したりしています。

主婦の仕事って、なめたらいけないと思っています。

県庁の中でも主婦歴のベテラン、主婦歴35年のベテランが、主婦の秘訣を話してくれるそうです。



### (県職員)

今、将来の夢「主婦」とおっしゃいましたが、凄く嬉しいんです。世の中にいろんな職業がありますが、主婦は、その一番重要な根底になる仕事だからです。働く人は、皆、家庭から職場に行って働きますよね。今、在宅ワークなんかもありますが、やっぱり家族が元気で働いていける、そして世の中を活性化していく。その基本は家庭だと思いますので、その家庭を上手く回して、家族の健康を支えるというのが、主婦の重要な役目だと思います。

主婦は、とてもいろんな管理、マルチタスクって言うのですが、家にある食料などの在庫とか、あとは、子どもさんがいれば、子どもの学校の送り迎えとか、必要な色々な事項を同時並行で管理しながら、家族の健康を守って、世の中を、働く人を回していくというのが大事な役目なので、自分が健康でいつも明るい気持ちで家族のこと、周りの皆さんのことを思いながら過ごしていければ、素晴らしい主婦になれると思いますので、日々明るく楽しく過ごしてください。

ありがとうございます。



### (知事)

主婦の秘訣は、明るく健康だということでした。  
でも、世の中を回しているのは主婦だぞ、ということですので、頑張っていこう。  
今日は、皆とこうして話ができたとし、久しぶりに王林の歌を歌わせていただきました。  
では、マイクをお返しします。

### (司会)

ありがとうございました。  
以上で意見交換は終了となります。  
生徒の皆さんの盲学校や地域を想う気持ち、青森県の未来を想う気持ちが会場の皆様にも伝わったのではないのでしょうか。  
意見発表した生徒の皆さん、また丁寧に分かりやすく凄く楽しく回答していただいた皆さん、ありがとうございました。  
さて、三村知事と楽しく語り合う時間もあっという間に過ぎてしまいました。  
三村知事、今日のフレッシュトークはいかがでしたでしょうか。



### (知事)

いろんな意見、ドキドキしました。  
凄くストレートな質問をいただいたので、こちらもストレートにお話をさせていただきました。  
県庁は、皆がこの青森でよりよく生きていけるようにしたいと本気で仕事をしています。  
その想いを逆に我々も伝えることができたかなと思っています。  
これからも誰もがこの青森でよりよく生きていけるようにするための仕組みと具体のこのために全力で努力しなきゃいけない、そのことをきみたちからいただいたいろんな言葉で決意しました。  
だから、きみたちも明るく未来へ進んでいこう。  
今日は本当にありがとうございました。

